

18th World Congress of the EAPC 2023での研究発表

目で見ると
海外論文発表

竹村 美穂*

Presentation at 18th World Congress of the EAPC 2023

Key Words : Palliative Care, Cancer Pain Management, Opioids

<参加会議名>

18th World Congress of the European Association
for Palliative Care 2023

<開催場所> Rotterdam, Netherlands

<渡航期間> June 13-19, 2023

<発表タイトル>

Which opioids are effective for cancer patients
with cancer pain including bone metastasis?: A
comparison of tapentadol, methadone, oxycodone,
fentanyl, and hydromorphone

この度、オランダのロッテルダムにて開催された
18th World Congress of the European Association
for Palliative Care 2023 に参加し、ポスター発表を
行いました。本学会は、緩和医療の分野において世界
最大規模の国際会議であり、4年ぶりに対面形式
で開催された今回の年次大会には、緩和医療の分野
を牽引する世界中の研究者および医療従事者が集ま
りました。本会議での発表は2回目でしたが、前
回はCOVID-19の影響によりオンライン参加であ
ったため、現地参加したのは今回が初めてでした。

私は、難治性がん疼痛に対する新規治療法の確立
を目指した研究を行っています。本会議では、オピ
オイド鎮痛薬のタペンタドールとメサドンが、がん
の骨転移による痛みの新規治療薬になり得ることを

報告しました。発表後に多くの質問や意見をいた
だき、コーヒープレイクの時間にも個別で質問を受け
るなど、有意義な議論を行うことができました。また、
世界的に著名な研究者や新進気鋭の研究者が交わす
活発な議論を目の当たりにし、大きな刺激を受けま
した。さらに、バンケットやレセプションでは、研
究者や医療従事者だけでなく、チャプレン（病院付
き牧師）などの様々なバックグラウンドを持つ参加
者と交流することができました。研究に関する話題
のみならず、各国の死生観の違いや、社会構造に根
差した緩和医療の在り方についてディスカッション
でき、今後の研究活動ならびに臨床活動に活かせる
ような多くの学びがありました。このようなセッション
外での交流ができることも対面開催ならではの
魅力であり、学会や会議に現地参加する重要性を改
めて実感しました。

最後になりましたが、本学会発表にあたり多大な
ご支援を賜りました生産技術振興協会に厚く御礼
申し上げます。



* Miho TAKEMURA

1996年3月生まれ
大阪大学 薬学部 薬学科卒業
(2020年)現在、大阪大学大学院 薬学研究科
医療薬学専攻 医療薬学分野
博士課程4年

専門/医療薬学

TEL : 06-6879-8250

E-mail : takemura-m@phs.osaka-u.ac.jp



ポスター発表の様子



Opening Ceremonyの様子



発表会場の様子